

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第130版

理念と実践で 絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



お家においても、「繋がっている実感」を大切に...

私たちの保育が 大切にする

新宿せいが子ども園の安藤先生から、園での取り組みについてご寄稿頂きましたのでご紹介させて頂きます。
私たちの保育では、子どもたちが主体性を発揮しながら遊び、成長するためには「家庭での関わりと園での関わり」のバランスが必要不可欠である。そのことを保護者の方たちに伝えてきた。そのバランスが私たちの意図とは関係なく崩されてしまった今、「保育の意義って?」

ある日の朝会で、藤森園長が言ったことは、まさに「今、保育で大切にしなければならぬこと」だった。憶測や不安に左右されてしまう状況に置かれて、何を大事にしているかを原点に戻ってもう一度考え直してみよう。子どもたちは、限られた環境で毎日過ごしている。家庭によって、その度合は違うが、外出も出来ず、遊ぶ相手も（保護者は家で仕事をしないといけないので）居らず、YouTube漬けの毎日…。そんな家庭が多いことは、様々な情報から想像



せいがお楽しみ便/第一号

さらにはひとりでも楽しく遊んだり、体を動かせる工夫も加えられていった。これらを園児たちの家庭に届け、「各家庭を保育室とした遠隔での見守る保育」の試みは現在も進行中である。
子どもたちをはじめ、保育士たちの命を守ることは、何よりも優先されるべき事項であることは間違いない。同時に、この時期だからこそ「私たちの保育に出来ること」「私たちの保育の役割」を考え、自分たちの保育をもう一度、見つめ直す機会を持つことの大切さを藤森園長は伝えてくれている。私たちの「今」は、それぞれの園の保育をさらに進化させるいい機会なのかもしれない。



子どもの日+室内でも体を動かせるようなおもちゃの発送。

いまできることを!

新宿区の久保わかくさ子ども園様では、緊急事態宣言によって登園できなくなった園児のための動画配信が始まりました。きっかけは「園からの動画配信をやったら楽しそう!」という事務長の発言だったのですが、福島園長の「やってみませんか?」の声掛けに、職員からはたくさんアイデアが集まり、更に動画編集の職員も加わり楽しく制作したといえます。
動画にはちよつと照れながらも、めいりっぱい楽しみながら踊ったり、歌ったり、絵本を読む先生の姿がありました。それはまるで子どもたちとそのまま遊んでいるかのようです。そこには会えない子どもたちにも少しでも楽しんでもらいたい、大変な思いをしている保護者の助けになりたいという先生方の思いが溢れていました。「ねばならない」ではなく「したい、やりたい」を常に大切にしているのだと感じました。
自由に発想できる場づくり、そしてそれを思い切り実行できる環境。そんな文化から生まれた取り組みは、「ひとの想い」も、周囲に与える「パワー」も何十倍、何百倍にも強くするというのを改めて実感させて頂きました。



次々とサイトにアップされていく動画。保護者からは「新作が待ち遠しい」との声も寄せられ、先生方の想いも加速中!

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

こんな時こそ前向きに



登園している園児さん向けに行っている遠隔リトミック教室♪

福岡県糸島市のるんびにこどもえん様では、オンライン会議アプリのZoomを使い、自宅にいる園児さんのために様々なコンテンツを提供しているそうです。

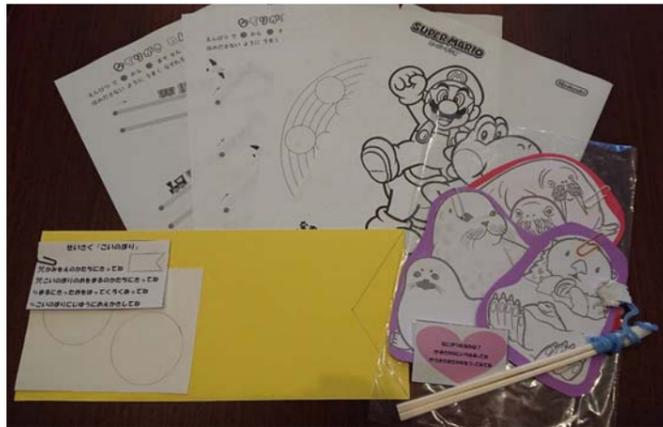
例えば「遠隔クッキング」。園とご家庭が同じ野菜を用意し、ピーラーなど子どもでも扱いやすい道具で料理をするのですが、一方的な配信ではなくお互いを確認しながら進められるところがZoomならでは。クッキングの他にもリトミックや体操など、提供する内容によってZoomやYouTubeなどを使い分けているそうです。

クッキングに先駆けて卒園式・入園式もZoom参加を募ったところ20家族ほどが参加されたそうで、会議アプリを上手に使用してリモート保育という新しいことに挑戦していく園様と、積極的に参加される保護者の

ニーズが合わさった新しい時代の実践だと感じます。

園長の榎崎先生にリモート保育についてお話をお伺いすると、「今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなり、もう元のような世界には戻らないのだからこそ、『こうしておいて良かった』と思えることをたくさん見つけておくことが大事だと思うんです。」と仰います。「先が見えない中で戦っている全国の先生方の心身が心配ですが、少しでも前向きになつてもらえたらと思って。」と同じ境遇にいる先生方を想い発信し、行動し続けている榎崎先生からは、今までの常識を捨てて常に進み続ける前向きさを教えて頂きました。

コロナウイルスが終息しても、私たちも前例にとらわれず常にその時の最善を探し続けていきたいと思えます。



発達に欠かせない工作や塗り絵も週1回お送りしているそうです。

一期一会庵

アフターコロナ

世界ではロックダウン後の終息宣言をする国家が増えてきました。医療崩壊を防ぎ、緩やかに感染を取めるという目標が達せられたところからアフターコロナでの新しい戦略が生まれ始めています。

隣国では今回の災害を転じて強かに経済活動によって世界を席巻しています。まさになんでも使えるものは使い、どんな機会でも前向きに利を求めていく生き方はまさに大陸の歴史と文化です。

私たち日本人は、小さな島国で育ち自然と共生しながら質を追求してきた民族ですから利よりも暮らしの充実を求めていくようにも思います。

今までも新鮮な自然に恵まれ、豊かな四季によって純心を研ぎ澄ます暮らしを支えてくれました。

外を眺めればあらゆる自然の多様な変化を味わえるゆとりがあるのが本場に有難いと実感しています。

今回の新型コロナウイルスで世界が一度、みんなで立ち止まり、このあとのように生きるのかを向き合う機会を得ました。

正しく立ち止まり振り返った人たちは、新型コロナウイルスが出現する前の元の生活に戻ることを求めず新型コロナウイルス後の新しい時代を創ろうと思えます。

まさに私たちは新型コロナウイルスの御蔭で時代が変わる瞬間に立ち会ったと言えるように思います。

私たち人間もまた、地球の生命の一部でありいくら人間が世界を征服したと思っても天敵は常に頭れ私たちに謙虚であること、分限を守ることを教えてくれます。

子どもたちの未来のために、何を覚えて何を守るか、今までできなかったことを、新しいステージでもう一度やり直す機会を得たとも言えます。

人間は立ち止まることで、過ぎ去った日々を見つめ直し、これからをよりよく生きる挑戦をはじめていくのです。私も子どもたちが100年後から振り返ったとき、今回の新型コロナウイルスの時の決断の御蔭で今があると、子孫たちにもこの感謝されるようなものになりたいと思っています。

いただいた大切なご縁、一期一会にアフターコロナの面白く豊かな「暮らしフルネス」を、子ども第一義の理念で取り組んでいこうと思えます。

編集後記



生きる・働くという「暮らし」自体も考え直す良い機会に。

今月も竹取新聞をご覧いただき有難うございます。今回はコロナウイルスによる緊急事態宣言以後、お客様より「各園様が家庭や子どもたちにどんな取り組みをしているのかを知りたい」というお声を頂きました。全園お客様の実践記事を掲載させて頂きました。

だからこそ自分たちができることを実践されていることのように思います。その為に子どもたちの「今」を深く洞察し、どんな見守りが必要なのかを考え続ける先生方の姿から、「子どもを見守ること」は「社会を見守ること」でもあり、そしてこれからの新しい時代を作っていくのだと学ばせて頂きました。（眞田海）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます